

みんなが 豊かで しあわせに



昭和46年 1月号

発行所 東郷町役場
編集人

- ◇ こども——輝やかな未来と無限の可能性をたたえた明日への希望です。
- ◇ このこどもたちが、心身ともに健やかに成長するためには、これにふさわしい社会環境と豊かな愛情が必要です。
- ◇ 近年、交通事故やその他の思わぬ災害がわたしたちの身边をおびやかしつつあります。
- ◇ ことしこそ、こどもたちの笑顔が、みなさんの幸せがまもられるような明るく豊かな社会が築かれますように……。



○……………としておくくと便利です……………○

点滴



年のはじめ 新年あけまうございます。という年(し)なみなあいさつから一九七一年が始まります。

昨年は七〇年代の幕あけで、政治はもちろん経済的にも社会的にもはつきりした自覚を求められました。めまぐるしく変わる国の内外情勢のなかで、ことしこそ東郷町の進むべき方向をしっかりと見極めなければならぬ立場に立たされました。

▽一年の最初の日を元日といいます。元日は子どもたちばかりでなく、何かしら清新な気分がみなぎって、家族全員おめでたい空気に包まれます。元日といえば元日の朝のことで、正月三日の間で特におめでたい日とされています。

▽空気が乾燥しているうえに風の強い日が続きます。わが国の火災は、年間を通じて十一月から急にふえ、この一月から二月までが火災シーズンといわれています。いま出火すれば一瞬に燃えひろがる条件はそろっています。くれぐれも火の元に用心していただきたいものです。

わがここのやうにはあらねこれやこの三十三歳になるといふなり

牧水

昭和46年に期待するもの 豊かな郷土の建設を

町長 小野 弘

昭和四十六年の希望に満ちた新春を迎えつつしんでおよろこびを申しあげますとともにみなさんのご幸福を心から祈念いたします。昨年中はいろいろとご支援をいただき厚く感謝申しあげます。四十五年は一九七〇年代の初年として意義の深い年でありました。国民の多年の勤勉と努力によって経済生産ではついに世界第二位といわれる大きな発展を遂げました。いまさらながら優秀な民族としての誇りを感じざるをえません。

しかし、この反面過疎過密をはじめとする公害、物価、住宅、交通事故など、農家にとっては農政不信といろいろの問題が発生していることをあらためて反省しなければなりません。

これらの問題の解決なくして民族の繁栄と平和はないと考えます。本町においても、大小の差こそ

あれこれの余波はわたしたちの日常生活をおびやかしています。とくに、農林業を主軸とする本町にあっては、農林業の不安が暗黒の世界にいろいろな印象をさし与えます。昭和四十六年こそ農林行政の夜明けの年として広々とした青空を仰ぎたいと念ずる心がわたしの胸に強く燃えています。

東郷町に昨年はじめて東郷ニットの進出がきまり、一応農工併進

町振興に最善の努力を

議長 日 高 郡 司

成まで、残された数か月の責務を最後まで本町振興発展と町民の福祉の向上のために①広域市町村圏及び生活圏の設定 ②町振興計画の実施 ③開パ事業の推進 ④く

に希望申しあげたいことは、この美しい山河にかぎらない愛情と豊かな郷土を建設するための熱情を傾注していただきたいことです。ことしの四月に全国の統一地方選挙が行なわれますが、この時こそ地方の住民が直接行政にむかってきびしい批判をし、真に住民の住民による住民のための政治を確立することが大切だと思います。

本町の管農態勢の確立 ⑤明治百年記念継続事業 ⑥林構事業その他について執行当局と相携えて最善の努力をする決意を新たにしています。

どうか町民のみなさん、旧年以上にご指導とご協力をお願い申し上げます。簡単ではありますが年頭のごあいさつといたします。

生涯教育を理想に

教育長 高 森 文 夫

現代という時代の一番大きな特色は、きわめて急速な変化の時代にあることである。天候にたどるといえば、照る日曇る日雨の日風の日の変化のほげしい時代だといえる。そんな時代を生きていくためには何よりも先ず、雨にも負けず、風にも負けぬ丈夫なからだを鍛えることが必要である。それからまたよくいわれるように、現代は科学技術の時代であり、情報の時代である。つまり、知識の時代なのである。そんな時代を生きていかなければならない。だから、小中学の義務教育期間に将来どんな方向に進むにしても必要な基礎的な知識をみっちり身につけさせることが必要である。しかし、それだけでは人間は幸福を見失い、社会は人間疎外の砂漠になってしまうだろう。人間たるにふ

さわしい徳性、豊かな情操を大切に育てなければならぬと思う。つまり、古来から説かれてきた三位一体の教育、全人教育の理想がかけて進みたいと願う。人間が生まれ初めて最初に入学する学校は幼稚園でもなければ小学校でもない家庭そのものである。この考え方に立って「揺りかごから墓場まで」の生涯教育の理想としたい。理想への道は遠くても本町に生を受け本町で育つ子どもたちのよりよい将来のためにみんなで力を合わせて努力したいと思う。年頭に当たって考えることも、かねがね考えていることをあらためて考え直してみることにはすぎないけれども、教育には別に速効薬もなければ特効薬もない。ただ当然のことをたゆまず努力し実践する以外には道はないと思う。(原文のまま)

東郷町総合文化祭

十二月四日から六日までの三日間、役場と総合グラウンドで町の総合文化祭がありました。

この文化祭は、昭和二十三年から毎年開催しているものですが、ことしはいろいろの事情から従来の地区文化祭は自主的開催とし中央文化祭だけを開催しました。

四日は、農林産品、学芸品の受付と審査、展示が行なわれました。五日は総合グラウンドで町内の小中学生による球技大会があり、それぞれ熱戦をくりかえし、元気にボールを追っていました。

各部の優勝校は次のとおりです

▽小学校
ソフトボール(男子)東郷小

▽中学校
軟式庭球(男子)東郷中
バレーボール(女子)東郷中
ソフトボール(女子)坪谷中

役場議場では午後一時から農政評論家の松丸志摩三さんの「今後の農業の方向について」と題する講演会がありました。

六日は総合グラウンドで旭化成と宮崎大から全日本クラスの一流選手を招待して町民体育大会が開かれ、寒さを吹き飛ばして元気いっぱい健脚を競いました。

部落対抗リレー優勝部落
男子年合別リレー 小野田
女子年合別リレー 八重原
男子八百円リレー 坪谷
女子四百円リレー 坪谷

国民年金

ことしも大きく育てよう

昭和三十六年に百円、百五十円で保険料の徴収が始まった国民年金も十年を過ぎようとして大きく育ってきました。そして早くもことしの四月には、初の老令年金受給者が誕生します。制度発足当初高令者で加入しなかった人にも五年年金(保険料七百五十円)の道がひらかれ、高令者のほとんどが拠出制の国民年金受給権にむすびつこうとしており、いよいよ国民年金時代が到来しました。しかし反面ことしは、過去および今後において保険料未納のため、年金を受ける権利を完全に失い、また満額年金が受けられないなど暗晦が

浮き彫りにされる大きな転換時期でもあります。この重要な年をむかえて国民年金の必要性をさらに深く考えなくてはなりません。

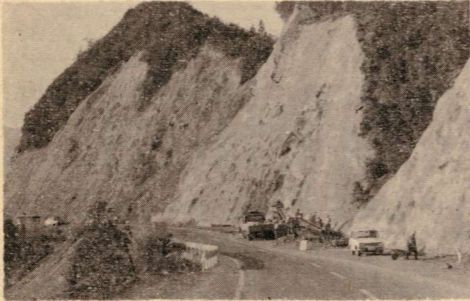
成人と国民年金
十五日は成人の日です。成人された人に対して心からお祝い申し上げます。若い夢と希望に満ちあふれて二十歳としての自覚をかみしめていることと思います。

▼二十歳の義務
世の中にはいろいろな職業があるように、いろいろな年金制度があります。会社に勤めている人や、公務員の人は厚生年金や共済組合

町の話

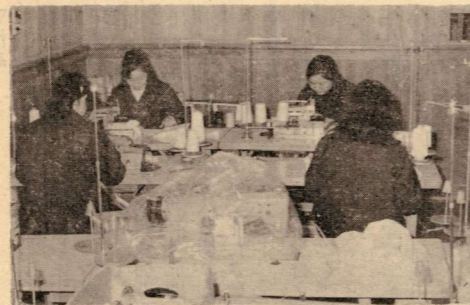
落石防止の工事中

いま、3月中旬の完成をめざして国道327号線の東郷橋～成願寺間の山ぎわのガケに落石防止のモルタル吹付工事がすすめられています。



4月から本格操業

東郷ニットの事業所が急ピッチで建設中ですが小野田公民館で4月からの本格操業までニットセーターなどの縫製、仕上げの仕事を開始しました。



郷土の神社

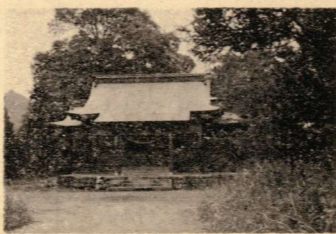
塩月 儀 市

山陰神社

祭神は大國主命(大黒様)である。いつ創建されたか詳かでない。現在残っている記録に天文七年成仲陽利国大明神宝殿再建立のことがある。天文七年は今から四三三年前である。

明治四年山陰神社と改称されたがそれまでは利国大明神と称した古くからの伝説によると天平勝宝十年(一一三三前)百濟の禰嘉王が内乱を逃がれて神門へ落ち延びる途次、利国大明神に立ちよられた。その日は寒気が厳しく手がこえて笠の紐をこたくことが出来ず神官がその笠の紐をこたくてあげたと伝えられている。近年まで比木神社の神門への神幸の際には必ず当神社に立ちよる笠をとられる神事があった。この伝説からうかがえば神社創建は相当に古い。

山陰神社の秋祭りには明治時代の頃までは小野田の花笠踊り、福瀬、鶴野内の白太鼓が奉納されたがいつの間にか絶えてしまった。小野田の花笠踊りはそのあとかたもない。惜しいことである。



山陰神社

坪谷神社

祭神は菅原道真である。創建は詳かでないが伝説によれば天文の初めの頃「天穂日命」(道真の祖神)の神託があり、その神告に従って里人たちが清浄の地を選んで神社を創建したと伝えられている。

大正十三年四月牧水が帰省した際「うぶすなのわが氏神よことしえに村のしづめとおわすの神」と献歌している。坪谷神社の神官日高家は連綿と続き現宮司は第十五代である。(原文のまま)

天正の頃大友と島津との戦の際社殿、宝物、古文書などすべて火にかかったものでそれ以前のこととは判然しない。古くは「天神宮」「天満宮」と称したが明治四年に坪谷神社と改称した。

昭和九年に「愛宕神社」と「小牧神社」を合祀したが愛宕神社は坪谷射場の原に鎮座されていた。元龜天正の頃、数十年の間都於郡城主伊東氏と(今の延岡)城主土持氏が争い、そのため村人たちは度々兵火にかゝり他に散住し、伊東氏も亡ぼされて始めて平和が帰る村人たちは里に帰ったがきき度々兵火に罹つたことを怖れて鎮火の神として火産靈神を天正十六年に祀つたと伝えられている。小牧神社は権現山に鎮座した神社である。



土地や家を売ったときの税金

建築ブームで土地の値段は相変わらず値上がりが続いています。そこで税制度の面から土地の値上りやを押えようということで、昭和四十四年の税法改正では、土地を売った場合の所得を他の所得と合算して課税するこれまでの方法をやめて、他の所得と切り離して、低い税率で課税するようにし、土地を売りやすくするようにしました。この場合の税率は一律一〇割という低い税率ですが、この税率を適用することができるのは、昭和四十六年までで、それから先の四十七年、四十八年は一五割、さらに四十九年、五十年は二〇割と次第に引き上げられ、売る時期が

早ければ早いほど税金が安くてすむようになっていきます。また、土地の値上りやを押えるためには土地の値上りやに便乗した「投機買い」を押えることも必要です。このため、土地を持っていた期間が五年以下という短い期間だったり、昭和四十四年一月一日以降に買った土地や家を昭和四十五年から五十年までの間に売った場合には四〇割以上の高い税率で課税されることになっていきます。土地や家を売ったときの税金の計算はいろいろと複雑ですが、おわかりにならない場合は役場税務課でおたずねください。

書きぞめ展

毎年行なっている書きぞめ展を次の要領で実施します。ことしはカレンダー、年賀状も同時に行ないますのでふるって出品してください。

▽期日 一月十四日～十五日

▽場所 東郷町役場

▽出品資格 町内の小学校および中学校に在学中の児童生徒

鈴峰園だより

新年おめでとございます。昭和四十一年三月一日に開園した町立養護老人ホーム鈴峰園も五回目の新春を迎えました。

九十二歳の児玉清六さんをはじめ五十四人が、仲良く、明るく、元気よく東天初日の出を拝み長生きを祈念いたしました。

町民のみなさん、老人クラブのみなさんも良い新年をお迎えのことと存じます。

ことしも、元気な心身を自ら持

▽作品

書きぞめ 題は自由とし、用紙は条幅仮巻きにします。カレンダー 平面カレンダーで用紙は四つ切りとし、八つ切りの場合は四つ切りの台紙にはりつけてください。年賀状 作品を八つ切りの台紙にはりつけてください。

▽その他

提出 作品は一月十二日まで各学校に提出してください。

審査員 宮崎大学教育学部 小川溪水先生外

賞 町長、議長、教育長賞のほか全作品に参加賞を授与します。

共同募金目標額を達成

昨年の十月一日から十二月末までの三か月間実施いたしました共同募金運動は、みなさんのご協力によりまして十三万四千八十五円があつまり本町目標額を達成することができました。

みなさんから寄せられた善意の

町民のみなさんも「老人は労働である」と思っていたが、社会でも家庭でもおとしりを大切にできるようにしてください。年末には、町内外からたくさんのご慰問をいただきまして厚くお礼申し上げます。

町報をかりまして心からお礼を申しあげ、わたしたちも元気がいふばつていくことをお誓いします

健康のしおり

腹を立てずに足腰背筋をシャンと立てること。

募金は宮崎県共同募金会を通して恵まれない人びとに贈りました。みなさんのあたたかいお心さしに對しまして深く感謝申しあげますとともに、今後ともより以上のご協力をおねがい申しあげます。東郷町共同募金会

成人を祝って

一月十五日に役場で成人式が行なわれます。ことし成人式を迎えるのは、昭和二十五年四月二日から二十六年四月一日までに生まれた人で、関係者にはすでに案内状を差しあげています。当日でも受けつけます(午前九時半から受付)近年、服装が必要以上に華美になる傾向がありますが、おたがいが実用的な服装で出席するようにいたします。

戸籍だより

十一月届出分

出生 おめでと

赤ちゃんの名	父の名	部落
稲田 明美	護 彦	八重原
寺原 伸広	孝 彦	小野田
黒木 裕子	博	"
寺田 洋子	和 洋	羽坂
河野 定治	益 夫	越表
黒田 由美	為 正	小野田
村田 牧江	宗 廣	小野田
甲斐 幸男	勝 男	"
小川 勇二	俊 勇	田野
那須 富栄	俊 一	瀬野

死亡 ご冥福を祈ります

氏名	年令	部落
安藤 藤子	三九才	寺坪
高橋 八重子	七七	坪谷
矢野 サノ	七七	"

今月の税金

町民税 第四期
国民健康保険税 第四期
納期 一月三十一日



万年筆

あけましておめでとうございます。七〇年代の第二年目をむかえ、さらに大きな課題が待っています。「情報化時代……」といわれる今日、さらに充実した町報にしたいものと編集者一同はりきっています。みなさんの生活と町の行政のパイプ役としての町報をことしよろしくおねがいします。

結婚 おめでと

氏名	部落
矢野 茂美	坪郷谷
黒田 康久	西郷村
佐藤 入	迫野町
下田 康久	国富町
加治 頌子	小野田
加治 頌子	門川町
三浦 信正	鶴野内

人口

45年12月1日現在 ()は対前月比

男	3,504人 (+8)
女	3,810人 (+10)
総数	7,314人 (+18)
世帯数	1,775世帯 (+1)